

平成29年度「学校評価」結果（概況報告）

盛岡第二高等学校

【調査結果】

昨年度との比較

「肯定的な評価」(注1)の比率の過年度比較

三者の比較

H29 生徒・保護者・教員間の比較

質問項目	29年度調査			28年度調査		
	生徒 %	保護者 %	教員 %	生徒 %	保護者 %	教員 %
	斜体・ゴシック体=65%未満 下線部=90%以上			斜体=75%未満		
1 教育目標の周知	84	87	97	86	87	95
2 わかりやすい授業の実施	74	76	92	79	74	100
3 学習指導の徹底	67		89	72	61	95
4 家庭学習・課題の点検	73	67	78	75	68	86
5 応用力のつく授業の実践	63		69	68	65	74
6 生活のきまりやマナーの遵守	75	90	86	75	90	74
7 生徒会活動や部活動の活発さ	94	94	94	94	96	98
8 勉強と部活動の両立	71	74	67	73	72	81
9 生徒への安心安全の支援	84	79	92	79	83	98
10 登下校時等の安全指導	84	83	94	83	83	91
11 希望進路の実現	85	80	97	85	83	98
12 適性を考慮した進路指導	82	74	97	83	77	98
13 保護者と連携した進路指導	73	70	94	74	71	95
14 二高に入学「よかった」	75	90	(注2) 100	79	92	(注2) 100
15 安全・清潔な学習環境の保持	84	94	97	80	94	93
16 生徒の相談への丁寧な対応	77	79	100	79	80	100
17 生徒の居場所づくり	80	85	94	78	84	98
18 保護者と連携したPTA活動		78	97	76	70	95
19 地域への貢献	83	90	89	84	83	91
20 学校徴収金の額	(注3) 86	91	97	(注3) 85	92	93

生徒 -保護者	生徒 -教員	保護者 -教員
斜体・ゴシック体=±20以上の差 斜体=±15以上の差		
-3	-13	-10
-2	-18	-16
	-22	
6	-5	-11
	-6	
-15	-11	4
0	0	0
-3	4	7
5	-8	-13
1	-10	-11
5	-12	-17
8	-15	-23
3	-21	-24
-15		
-10	-13	-3
-2	-23	-21
-5	-14	-9
		-19
-7	-6	1
		-6

(注1)選択肢「a大いにそう思う」「bそう思う」を合わせて「肯定的な評価」、「cあまり思わない」「d全く思わない」を合わせて「否定的な評価」とした。

(注2)項目14の「職員」は「法令・規範の遵守」 (注3)項目20の「生徒」は「適性や興味関心に応じたコース選択」

【分析1】 全体的な傾向について

今年度も昨年度とほぼ同じような傾向を示した。肯定的な評価が75%以上の項目が多いが、学習に関わる項目で低めの評価が目立つ。生徒・教員の評価において、昨年度は肯定的な評価が65%未満の質問項目はなかったが、今年度は生徒で1項目あった。

【分析2】 評価が高かった項目、評価が改善した項目について

「7 生徒会活動や部活動の活発さ」は昨年同様三者ともに90%以上の高い評価。部活動については、全国大会への出場等の結果を残しているだけでなく、どの部活動も生徒の興味・関心に応じた意欲的な活動が展開されている。

「15 学校は学習環境の整備に努め、安全で清潔な環境の保持に努めていると思いますか」「20 学校徴収金の額」は今年度も高い評価を得た。15については、毎日の清掃の徹底や、修繕すべき箇所等が出た場合には速やかに対応しているためと考えられる。

「1 教育目標の周知」は、学校要覧等に教育目標を明記し、職員もその意識のもと教育にあたっている成果と考えられる。

「14 二高に入学良かった」は今年度も保護者から高い評価を得た。学習や部活動を意欲的に行い、充実した生活を送っている生徒が多いことが高い評価へつながったのではないかと考えられる。

【分析3】 評価が低かった項目、評価が分かれた項目について

【改善策】

「5 応用力が身につく授業の実践」は最も評価が低かった。1・2年生での基礎固め、2年生での新しい科目からの基礎学習、3年生での応用力涵養という違いも影響しているのではないかと考えられる。

「興味関心を持たせる授業」「教えて考えさせる55分授業」の充実をさらに図っていく。

「3 学習指導の徹底」昨年同様、教員と生徒の評価が分かれた。教員は授業、小テスト等を通して指導の徹底を図っていると感じているが、生徒の「もっとわかるようになりたい」という思いも強いと考えられる。

小テストの結果や各科目による授業の理解度を問うアンケートなどを活用し、生徒一人ひとりの理解の状況にさらに目を向け、きめ細かい指導をしていく。

「8 勉強と部活動の両立」昨年度は生徒と保護者で75%未満であったが、今年度は教員が昨年度より14%評価を落としている。生徒の評価は一昨年度より減少し続けており、全体からみても低い評価となっている。

社会全体で部活動のあり方が話題になっている昨今、本校でも更なる文武両道を目指し週1日の休養日を必ず設けるなど、具体的対策を立てていく。

「13 保護者と連携を取りながら、進路指導を行っていると思うか」昨年度とほぼ変わらない結果であるが、生徒と教員、保護者と教員の評価の差が大きく出ている。三者面談の実施のほか、進路学習会の開催、進路通信の発行等情報提供を図っているが、保護者が学習会に多く参加できるようにさらに改善していく必要がある。

進路学習会への保護者の参加率向上、進路希望に応じた情報提供などについて、さらに工夫に努める。進路通信を保護者まで届いているかの確認も必要。

「16 生徒の相談への丁寧な対応」教員(100%)と生徒・保護者(70%台)との評価が分かれた。生徒から相談があった場合適宜対応していると感じている教員と、二者面談をさらに増やしじっくり話を聞いてほしいと感じている生徒の差であろうかと考えられる。

日頃から生徒の状況、変化をよく観察しこまめに声かけをするとともに、二者面談の機会を増やす。